

# 岡山東商業高校ボキャブラリー・コンテスト

## —『VALUE 1000』を使って—

宮島 宏幸

### 1. はじめに

英語力は文法を知っているだけでなく、語彙力がないといけません。進学を目的とする普通科高校では受験英語に対応できる語彙力をつけることが大切ですが、実業高校となると実情は変わってきます。中学で英語につまずき、英語嫌いになって入学してくる生徒が多いのですが、今日の日本企業のグローバル化が進んでいることを、高校を卒業して就職する生徒も、英語におけるコミュニケーション能力が求められる時代だということを認識しています。受験のためではない必要最小限の英語語彙力を身につけさせるにはどうしたらいいかを、津山商業高校勤務時代から考え、この基本英単語をベースとするボキャブラリー・コンテストを立案し、両校で実施するに至りました。生徒が日常会話で最低限必要とする英単語を習得させることを目的としました。

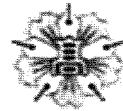
### 2. 岡山東商業高校で実施したボキャブラリー・コンテスト

本校でのボキャブラリー・コンテストは年7回、全学年同一問題をマーク問題形式で出題します。出題数は100問で、20分で生徒は解答します。

- 第1回 1学期中間テスト
- 第2回 1学期期末テスト
- 第3回 夏休み登校日
- 第4回 2学期始業式
- 第5回 2学期中間テスト
- 第6回 2学期期末テスト
- 第7回 3学期始業式

毎回クラスごとの平均点を一覧表にして、教室に掲示すると同時に、生徒一人一人の成績表を渡します。実施した回数合計で順位を通知票に記載し、さらなる努力を促します。そして卒業式前日に全校で上位10人を表彰します。表彰される生徒は大半が3年生ですが、2年生や1年生の英語好きの生徒

が表彰されるのが醍醐味です。



*Higashisho Vocubulary Contest*

## 東商ボキャブラリーコンテスト

コミュニケーションに必要なものは

1に「伝えたい内容」

2に「伝えたいという気持ち」

3に「それを伝える言葉」です。

この言葉という道具を手に入れませんか？

「使える英語」に英単語・熟語は絶対必要。

世の中にははたたく東商生全員で競い合って

英語力をUPさせよう！

#### 開催要項

#### ■コンテストの方法

- ◇全校生徒が参加する英語ボキャブラリーテスト。マークシート方式で、単語・熟語・発音・例文を中心とした問題を出題します。

#### ■使用教材

- ◇数研出版 VALUE 1000

#### ■開催時期と出題範囲

- |   |         |             |
|---|---------|-------------|
| ① | 1学期中間考査 | p. 12～p. 46 |
| ② | 1学期期末考査 | p. 48～p. 79 |
| ③ | 休み登校日   | p. 80～p.113 |
| ④ | 2学期始業式  | p.114～p.147 |
| ⑤ | 2学期中間考査 | p.148～p.181 |
| ⑥ | 2学期期末考査 | p.182～p.215 |
| ⑦ | 3学期始業式  | p.216～p.237 |

(教室に掲示したもの)

津山商業高校でボキャブラリー・コンテストを企画立案し始めたのですが、転任先でもこの趣旨に学校が賛同してくれて実施できたのは喜びにたえません。

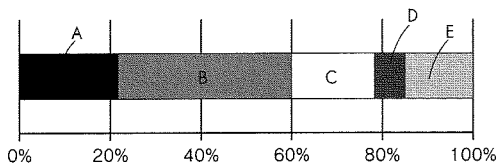
### 3. 『VALUE 1000』を選んだ理由

ボキャブラリー・コンテストの目的は生徒に必要な最小限の英単語を定着させることなので、英語教師としては、より語彙数の多い単語集を選びたくはなるけれども、ボキャブラリー・コンテストの趣旨を考え、単語集を選ばなければなりません。商業高校も今や進学が7割を超え、受験科目として英語が必要な生徒が増えているので、センター試験や難関大学を目指す生徒には、それなりの単語集を持たせて学習させています。しかし、ボキャブラリー・コンテストは1年生から3年生まで誰でも努力すれば、成果を出せるレベルの単語集を選ぶことにしました。

ボキャブラリー・コンテストの担当者を各学年に配置し、その担当で単語集を選びました。また、現場が益々忙しくなっている現状では、やはり問題作成システムが完備した単語集を選ぶようになります。『VALUE 1000』を選んだのは、中学校の教科書と英語Iの教科書で使用されている1700語レベルを中心に構成されていて、ボキャブラリー・コンテストの目的に合致した単語集と言えます。また教科書コーパスの分析を元に見出し語の選定がなされており、解説や用例の記述が行われているのが魅力的でもあります。そして無理のない単語学習ができるように編集されています。実際に生徒対象のアンケートで以下のような結果が出ています。

問 a 『VALUE 1000』は勉強しやすかった。

※A…はい B…少し C…どちらでもない  
D…あまり E…いいえ (以下同)

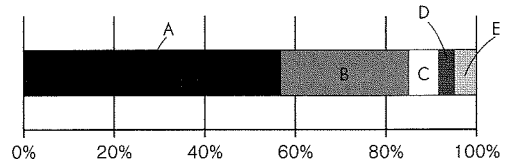


60%が勉強しやすかったと答えています。また約20%の生徒が普通と答えているので、約80%の生徒が勉強しやすかったと思っているようです。ボキャブラリー・コンテストを始めたころ3000語レ

ベルの単語集を使用したことがあります。低い点数しかとれないことから生徒に不評を買い失敗したことがあります。やはり、レベルを英語Iまでとすることがボキャブラリー・コンテストでは鉄則だと思います。

『VALUE 1000』はSTEPごとに関連したテーマで同じ品詞の単語をまとめているので、非常に学習しやすいと生徒の意見が多かったことから適切な単語集を選んだと確信することができました。生徒もできるという実感を持つことにより英語学習への意欲を増幅させたように思います。商業高校に英語は必要かという問に対しても以下のような数字が出ています。

問 b 商業高校では英語が必要ですか。



90%以上の生徒が英語が必要であると考えています。このボキャブラリー・コンテストで生徒は学習意欲を増したようです。

7回実施した各学年の平均点は以下の通りです。

1年…64.6

2年…63.6

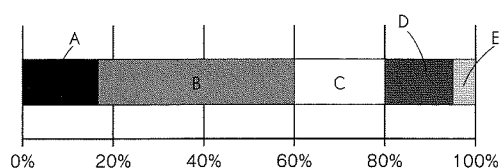
3年…70.1

3年生がトップですが1年生が2年生を抜いたのは驚きました。本校は部活動が活発なので中心となる2年生はなかなか学習時間を確保できなかったのが原因ではないかと思っています。冒頭にも申し上げましたが、表彰式で1・2年生が上位10名の中に入るのも、基本的な単語が問われるので1年生でも十分に努力すればよい点が取れるのだと思います。

さらに、『VALUE 1000』には問題作成システムが完備しているため、毎日忙しい中、作問する手間が少なかったのが良かったです。教師の仕事を極端に多くするとせつかくの取り組みも無駄になってしまうので、出版社には問題作成システムの充実をお願いしたいと思います。唯一『VALUE 1000』の問題作成システムは発音問題を作成しないのが残念です。今後の改良を望みます。

このボキャブラリー・コンテストの取り組みで生徒は明らかに基礎基本の英単語を身につけることができた実感しているようです。中には定期考査では平均点しか取れないけれど、ボキャブラリー・コンテストだけは上位を目指す3年間努力した生徒が少なくないのはうれしい限りです。努力すると成果が出ることを知り、前向きに努力する生徒が増えたのは確かです。ボキャブラリー・コンテストで語彙力がつきましたか、という問いに以下のような結果が出ました。

問c ボキャブラリー・コンテストで語彙力がつきましたか。



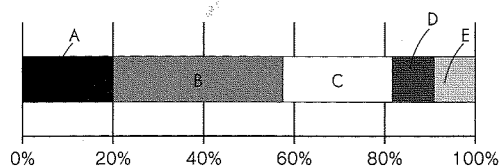
80%の生徒が語彙力がついたと答えています。この表からもわかるように、基礎基本をベースにしたボキャブラリー・コンテストの取り組みは成功したと確信します。

#### 4. ボキャブラリー・コンテストの対策としての取り組み

部活動に忙しく、生徒の自発的な学習を全体に求めるのは無理があるので、様々な取り組みを実施してきました。英語Ⅰや英語Ⅱの授業で毎回小テストを実施しました。本来は教科書の新出単語をテストするのがよいのかもしれませんが、あえて『VALUE 1000』の単語を毎回4ページずつ生徒の負担にならないようにして10問の小テストを実施しました。負担のない範囲での小テストなので毎回平均点は7点を越えていました。

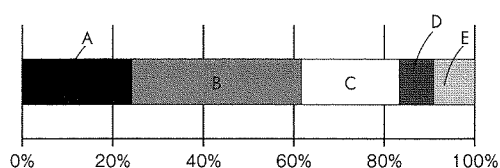
小テストを採点して生徒に返却しますが、その小テストをノートに貼らせ、まちがえた単語を10回書きすることを課し、定期考査前に提出させ、まちがえた単語をより確実に定着させるようにしました。小テストは役に立ちましたか、という問いに以下の結果が出ています。

問d 小テストは役に立ちましたか。



80%以上の生徒が役に立ったと答えています。学習方法を教師が提示するのも必要なことではないでしょうか。

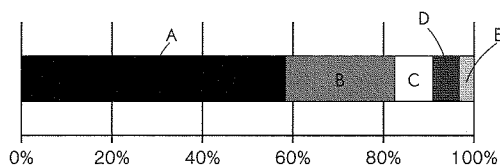
問e 小テスト4ページは適量だった。



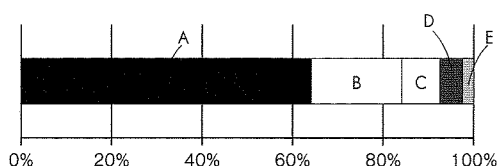
英語教師はどうしても多くの単語を覚えさせたいのが普通ですが、その学校のその生徒に適した量の単語数を小テストにして得点できる喜びを与え、英語に対する嫌悪感を払拭することが大切ではないでしょうか。大半の生徒が適切な量の小テストだったと答えてくれています。

小テストの他に、ボキャブラリー・コンテスト実施前に、単語の意味を書き5回英単語を書くプリントを宿題として毎回作りました。部活動の遠征や試合で時間があまりないとブツブツ言いながらもきちんと提出していた生徒はすごいと思います。

問f 小テストのノート提出は大変だった。



問g 5回書きプリントは大変だった。



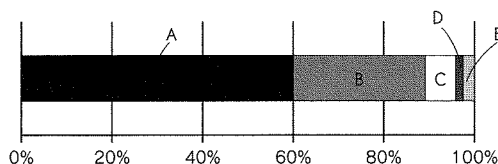
約80%の生徒が小テストの取り組みも5回書き

プリントの提出も大変だったと答えています。ボキャブラリー・コンテストの趣旨を理解し、着実にこなした生徒を誇りに思います。部活動と勉強の両立を図ってこつこつ努力することの大切さを理解し努力する生徒がいることに、これからもわかりやすい授業をしなくてはならないという責任を益々痛感しました。生徒が居眠りしたり、あくびをしたりするのは自分の授業がつまらないからなのだと自分を戒めないといけませんね。とにかく生徒に50分間集中して授業に取り組ませる責任は教師側にあるのです。

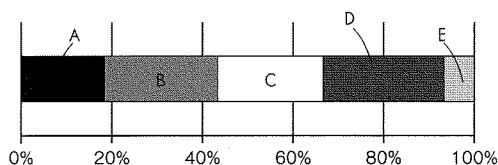
英語はこれからの日本では生涯学習に位置づけられると思います。英語が苦手な生徒が多い実業高校の生徒には、まず基礎、基本の英単語を着実に定着させる必要があります。

生徒の英語に対する考え方は徐々に、いや明らかに変化しつつあります。社会に出ると英語が必要になると思いませんか、という問いに以下のように答えています。

問 h 社会に出たら英語が必要になる。



問 i 社会に出ても英語を勉強するつもりだ。



地方都市でも多くの外国人が仕事をし、生活をしているのを間近に感じ、楽天やユニクロが社内公用語を英語にするというニュースを耳にし、中小企業が海外展開することが多くなっていることを知るにつれ、英語から逃れられない現状を認識しつつあるのだと思います。

## 5. まとめ

英語の運用能力を高めるために最も必要なことは、いかにボキャブラリーを増やすかだと思います。い

かに文法や語法を知っていても語彙力がないと十分な会話を成立させることはできないと思います。また、中学校で英語につまずく生徒が多く入学してくる実業高校で、受験に必要な語数を全体に求めることには無理があると思われます。日常会話で必要最小限の英単語を定着させることが大切ではないでしょうか。また、基礎、基本の英単語を問うボキャブラリー・コンテストは生徒に過度の要求をすることがなく、負担に感じさせないことが重要だと思います。

さらに、高校にはいろいろな校種があり、その校種ごとに必要とされる英語はちがってくると思います。農業高校に必要な英語、工業高校に必要な英語、商業高校に必要な英語、普通科高校に必要な英語はちがって当然だと思います。現在のように一律の教科書で、授業単位数がまちまちな状況では、特色ある自校の英語教育を展開することには無理があると思うのは私だけでしょうか。

コーパスを駆使してその学校の教育目標を達成するための自前の単語集を作ることが理想ではあるが、そのようなものを作る時間的余裕は現場にはありません。したがって、最もそれぞれの学校の英語教育の目標に合致する市販の単語集を選ぶしかありません。ゆえに、本校の目標に最も合っていた英単語集が数研出版の『VALUE 1000』であり、生徒は基礎、基本の英単語を楽しく学習することができたのです。

将来的には、このボキャブラリー・コンテストが県下の商業高校で競うコンテストになればいいと思います。外国人のお客様が来店しても、きちんと英語で応対できる人材を育成することができればいいと思います。

学校全体で取り組むボキャブラリー・コンテストは評価するための手段ではなく、高校卒業と同時に就職する生徒も、上級学校に進学する生徒も英語での日常会話が苦勞なくできるようにするために必要な最低限度の語彙力をつけさせることが目的です。英語が生涯学習である前提のもと、このボキャブラリー・コンテストがその礎になれば幸いです。

(岡山県立岡山東商業高等学校教諭)